

平成20年01月19日
文部科学省国際統括官付

1. 概要

2005年から始まった国連ESDの10年の中間年（2009年）を迎えるにあたり、ESDの更なる普及促進のために、より具体的な戦略とプロジェクトの策定、民間との協力と世界コンソーシアムの形成、教授法の研究、ESDの10年の中間年に向けた評価等をテーマに議論し、その成果文書を取りまとめた。

2. 日時・場所

平成20年12月2日（火）～5日（金） 東京 国連大学本部

3. 主催

文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、ユネスコ、ユネスコ・アジア文化センター（共催：国連大学、宮城教育大学）

4. 参加者

下記機関より、39カ国 約350名

ユネスコ本部・地域事務所、国連大学、関係国連機関、ユネスコ加盟国政府、各国ユネスコ国内委員会、ESD推進機関（大学、教育研究機関）、学校関係者、NGO、民間企業 等

5. 成果文書概要

フォーラム全体の議論を総括し、ESDの10年の後半年に向けて、ESDの一層の推進のための提言を策定。提言ではユネスコ加盟国に対しESD推進のために、ユネスコ・スクール等既存の枠組の活用、高等教育機関やNGO等の様々なステークホルダーとの連携、フラッグシップ・プロジェクトの策定などを求めるとともに、ユネスコに対しESD推進のための一層の努力を求めた。本提言が、ドイツで開催されるESD世界会議2009においてとりまとめられる宣言文にも反映されるよう、我が国よりインプット予定。

【参考】ESD世界会議2009（2009年3月31日～4月2日 於 ドイツ・ボン）

ESDの10年の中間年を迎えるにあたり、ユネスコ、ドイツ教育省、ドイツユネスコ国内委員会の共催により、(1)全ての教育及び質の教育にESDが果たす重要な貢献、(2)ESDの取組についての国際的な情報交換、(3)ESDの10年に関するこれまでの実績の検証、(4)今後の戦略の策定などをテーマに、世界規模でのESDの対話のための会議を開催。